



地域医療の要となる 市立総合医療センター 9月に開院

問い合わせ 保健・医療政策課 ☎ 072 (740) 1136

市立川西病院が担っていた小児・周産期・救急医療などを地域の病院と連携して引き続き実施します



安心できる 医療体制を構築

地域の基幹病院として
市内外の医療機関と連携します

市立川西病院と協立病院が9月に統合し、「市立総合医療センター」としてキララ川西地区に生まれ変わります。同センターでは、市立川西病院が担ってきた小児・周産期・救急医療などを充実させて、引き続き実施します。一般病床の全室個室化や重症系病床の整備など、施設・設備を充実させ、地域の基幹病院としての医療機関などと連携することで、医療の圏域内完結率の向上を図るとともに、高度急性期病院としても一定の役割を担います。将来にわたり、市民が安心して暮らせる医療体制の整備に向け、指定管理者とともに魅力ある病院をめざします。同センターの基本構想など詳しくは市ホームページ（左の2次元コードからアクセス可）へ。

ここでは、同センターの入
院病棟と医療体制について紹
介します。

市ホームページは
こちらから



全室個室で安心できる環境を提供

入院患者のプライバシーに配慮しながらも
スタッフが目配りしやすい病棟を整備
免震構造などを導入し災害時にも継続して医療を行います

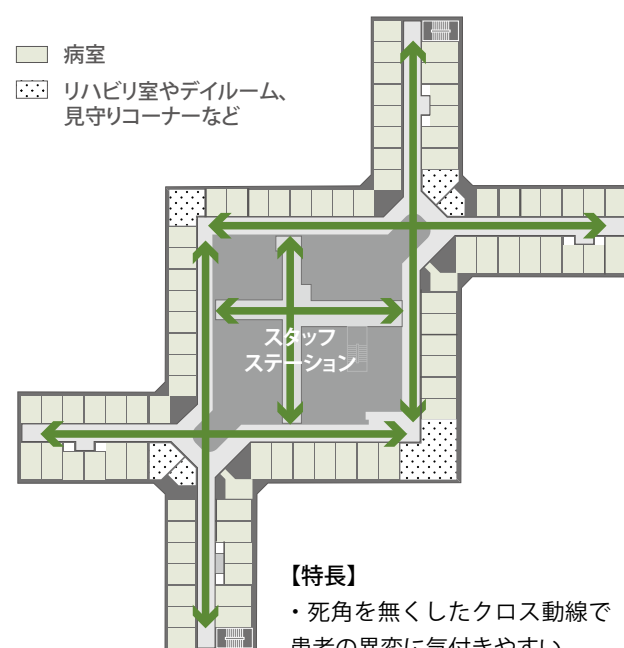
プライバシーに配慮し
一般病床を全室個室化

市立総合医療センターは、
入院患者のプライバシーに配
慮し、患者や家族などが快適
に利用しやすい環境を確保す
るため、一般病床を全室個室
としています。

一般病床全体の約7割に当
たる262床は、無料個室と
なっています。有料個室には
ユニットシャワートイレを整
備します。

また、医師や看護師などが
待機するスタッフステーション
からフロア全体が見渡せる、
看護動線と物流動線を最適
化した「トリプルクロス病棟」
を整備。病室やリハビリ
室、デイルーム、見守りコー
ナーに目が届きやすく、病
室に駆け付けやすい病棟とな
ります。

トリプルクロス病棟



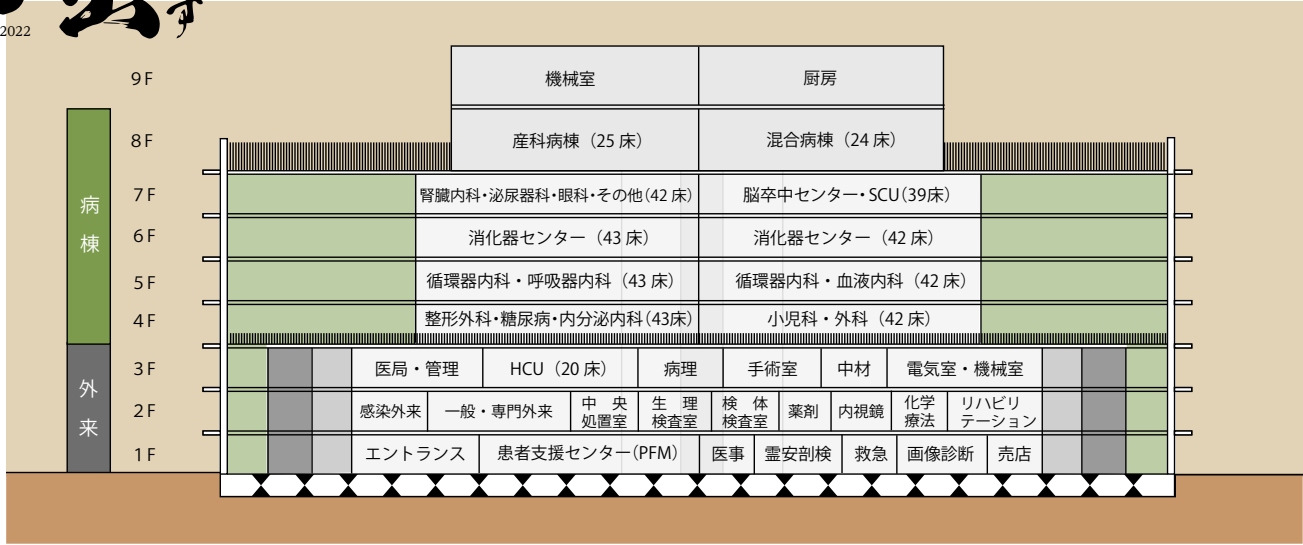
【特長】

- ・死角を無くしたクロス動線で患者の異変に気づきやすい
- ・従来の病棟と比較して看護動線を10%削減

免震構造と床のかさ上げで
災害に強い病院に
災害時にも継続して医療を
提供できる体制を整えるた
め、地震の揺れを軽減する免
震構造を導入。加えて、床を

約1・7mかさ上げした浸水
に強い建築構造を採用。水害
や地震などの自然災害に屈し
ない建物を整備しました。
また、領域を区切りやすい
病棟は感染症にも対応しやす
く、安心して入院できます。

病院フロアマップ



周辺マップ



近隣駐車場が使用可能 無料送迎バスも運行します

市立総合医療センターは、電車やバス、自家用車でアクセスしやすい、キセラ川西エリア内に建設されます。9月の開院後、平日の午前中はキセラ川西プラザ西駐車場を病院利用者の優先駐車場とします（満車時には同プラザ北・東駐車場も利用可）。

また、阪急・能勢電鉄川西能勢口駅と同センター間を結ぶ無料送迎バスの運行を9月より開始します。同駅前バスロータリーから20～30分間隔で運行。送迎バスについて、詳しくは広報誌や市ホームページなどでお知らせしていきます。

市全体の医療の質を 高めていきます

市長 越田 謙治郎

市立総合医療センターを9月から開院します。医療が専門化、高度化する中、これまでのように1つの医療機関で「かかりつけ医」から「救急」「緩和ケア」など多くの役割を担うことは最善ではありません。医療機関ごとの役割分担を明確にし、それぞれに必要な人材や設備などの医療資源を集約することが求められています。それが医療の質を高めることにもつながるためです。



このような方針のもと、市立総合医療センターは、救急医療や小児・周産期医療など公立病院の役割を担うとともに、近隣の医療機関と連携を深めてまいります。市民の皆さんの中には、現在の市立川西病院が無くなることで、不安を感じている方がおられることも理解しています。しかし、市立総合医療センターに生まれ変わり、市内や近隣の医療機関の役割が明確になることで、結果的に市全体の医療が充実し、皆さんが安心して暮らしていくことにつながります。ご理解をお願いいたします。

市立総合医療センターは、指定管理者である医療法人協和会が継続して運営しますが、これらも公立病院であり、市民の皆さんのために果たすべき役割を担っていきます。



外来待ち合い



HCU（高度治療室）

体制を充実させ 安全で質の高い医療を提供

救急科の設置やドクターカー（リピッドレスポンスカー）の導入などにより、救命率向上を図ります

医療体制を整備 手術後や救急の患者に対応

市立総合医療センターは28の診療科と、横断的に医療を行う13のセンターを整備し、患者に対応します（下表を参照）。

また、HCU（高度治療室）、SCU（脳卒中集中治療室）などの治療室を整備。手術後の患者や救急で受け入れた患者に、より安全で質の高い治療を行います。

救急体制を充実させ より早い初期治療を実施

市立総合医療センターでは救急科を設置。救急医療体制を充実させ、救急科と各専門科の医師が協力して治療に当たります。

入院や手術などを必要とする救急患者への医療提供を行う

う二次救急医療機関として、内科・外科・脳神経外科・整形外科については、365日24時間体制を取ります。また、医師や看護師などが救急現場に駆け付けて、初期治療を開始する「ドクターカー（リピッドレスポンスカー）」を導入し、救急患者の救命率向上を図ります。

入院前から退院後を見据え 切れ目なく患者をサポート

主に入院患者の一貫した支援を行う患者支援センター（PFM）を設置。入院前から退院後までを見据えた切れ目のないサポートを行います。

また、地域の医療機関との機能分担を図り、医療情報の共有化や「病診連携」「病病連携」の強化などによる一貫した医療の提供や、効率的な医療体制を構築します。

重症患者を治療する

HCU（高度治療室）と SCU（脳卒中集中治療室）とは

HCU（高度治療室）

重症患者を24時間体制で治療する病床。救急蘇生装置（酸素吸入器、人工呼吸用バッグ・マスク）や人工呼吸器、除細動器などの機器を配備。

SCU（脳卒中集中治療室）

急性期の脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）の患者を受け入れて、脳卒中の専門知識を持つ医師や看護師などの専門チームが集中治療を行う病床。

診療科とセンター

市立総合医療センター 28 の診療科				横断的に医療を行う 13 のセンター	
内科	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科	循環器センター	消化器センター
腎臓内科	糖尿病・内分泌内科	血液内科	神経内科	脳卒中センター	周産期センター
ペインクリニック内科	外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺センター	糖尿病・生活習慣病センター
乳腺外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	オンコロジーセンター	人工関節センター
産婦人科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	生殖医療センター	救急センター
泌尿器科	皮膚科	精神科	救急科	内視鏡センター	患者支援センター
麻酔科	放射線科	病理診断科	リハビリテーション科	急性期リハビリテーションセンター	